

## 【ニュース】

### ■リーグ戦欠場の医療大選手を激励する親善試合

部員不足から今秋の第49回北海道学生選手権を欠場した北海道医療大選手を激励する親善試合が11月5日、江別市の札幌学院大グラウンドで行われ、RB坂東晃太主将（3年、神奈川・桐光学園高）が感謝の激走を見せた。

新型コロナ禍の影響もあって新入部員の獲得が思うように出来ず、今季は選手3人の北海道医療大。学生選手権は欠場したが、札幌学院大や社会人チームに交じり、地道な練習を重ねてきた。そんな「ファースト・モラーズ」の選手たちに試合機会をプレゼントしようと、札幌学院大の佐藤敏弘HCが各大学と社会人チームに呼びかけて、親善試合が実現した。

この日は、2選手がけがのために欠場して北海道医療大からは坂東主将だけとなったが、1部の帯広畜産大2人、室蘭工業大8人、2部の札幌学院大1人、北海道科学大10人、社会人の北海道ブルズ6人、札幌ベンガルズ1人、北海道ライズ5人の選手が集まった。試合は「医療大・室工大・札学大・ブルズ」チームと「帯畜大、科学大、ベンガルズ、ライズ」チームに分かれて対戦。室蘭工業大コンビのパス攻撃が爆発した「医療大・室工大・札学大・ブルズ」チームが69-14で勝利した。最優秀選手に室蘭工業大のQB原田颯太（1年、岡山・倉敷天城高）が選ばれた。

北海道医療大の坂東はRBとLBでフル出場し、第2Qに科学大QBのパスをインターセプトするとそのまま40ヤードをリターンしてTD。第3Qには敵陣44ヤードからの攻撃でハンドオフを受けると、相手守備選手5人のタックルを次々とかわして力走り、そのままエンドゾーンに駆け込んだ。試合後に「攻守でTDの大活躍」（佐藤HC）をたたえて敢闘賞が贈られた。

坂東は「学生相手の試合で勝ったのは初めて。TD2本もうれしい。本当に楽しかった」と喜びを爆発させた。



「来年は部員をたくさん集めて単独チームをつくり、外部の練習に参加するだけだった今年の悔しさをぶつきたい」と決意を新たにしました。佐藤HCも「医療大選手のほか、各校の1年生や下級生にとっても次につながる試合になったのでは」と選手たちをねぎらっていた。

【写真】相手守備を振りほどいて力走する北海道医療大のRB坂東晃太（1）